

おおやまのしんこうとれきし

#19 大山の信仰と歴史

作者：平塚市博物館（ひらつかしはくぶつかん）

刊行：昭和62年（1987）

📖 解題

■ 内容

本書は、平塚市博物館で、昭和62年（1987）7月21日から同年8月30日まで開催された特別展の図録である。

江戸時代に多くの庶民が参拝に訪れ、霊山として人々の信仰を集めた大山の、特に明治期以前の歴史や信仰について紹介している。



[K17.64/30]

本書の構成は「大山信仰の歴史と諸相」、「大山寺縁起」の2部構成となっている。「大山信仰の歴史と諸相」はテーマを「大山開山」、「御師」、「大山講」、「大山道と大山詣」、「茶湯寺参り」の5項に分け、写真と併せて解説を添えている。各項目の内容は以下の通り。

「大山開山」には、大福山、如意山、雨降山等数々の呼称を持つ大山の由来と、早くから神仏習合の形態を持ち、為政者と密接な関係をもって活動が繰り返されてきた歴史が書かれている。

「御師」には、江戸時代末には160余りに上った大山における御師（明治時代以降先導師と改称）の発達とその実態が書かれている。

「大山講」には、前項の御師と、18世紀には随筆や滑稽本に取り上げられるほど盛んになった大山詣との関係性について書かれている。

「大山道と大山詣」には、大山道と呼ばれる参詣道と登拝の様子や、納め太刀による招福除災、青年男子の成年式としての登拝等、様々な信仰内容について書かれている。

「茶湯寺参り」には、死後101日目に大山の茶湯寺に参詣する習俗の概

第3章 思想・宗教

要について書かれている。

「大山寺縁起」には、白黒ではあるが、上巻 23 枚、下巻 29 枚のすべてが掲載されており、詞書部分については、縁起から詞書部分を抜粋し活字にした「詞書」が掲載されている。享禄 5 年（1532）に書写された「大山寺縁起」（二巻）が、平塚市博物館に所蔵されており、現存する大山寺に関する縁起絵のうち、記年のある最古の絵巻と言われている。

■ 作者

平塚市博物館は昭和 51 年（1976）5 月 1 日に開館した。「相模川流域の自然と文化」をテーマに活動している地域博物館である。

参考文献

- 『霊岳大山』石田光治郎著 二葉屋書店 1917 [K291.64/14A]
- 関靖 『『大山寺縁起』古写本の発見に就いて』上中下（『神奈川文化』第 6～8 号 神奈川縣文化研究会 1940）[K05/2/1-9a]
- 有賀密夫 「大山門前町：その形成と参詣道」（『神奈川文化』21 卷 2 号 神奈川県立図書館 1975）[K097/1/21]
- 『平塚と大山』平塚市観光協会 1977 [K291.62/24]
- 田中宣一 「相州大山講の御師と檀家：江戸末期の檀廻と夏山登拝をめぐって」（『日本常民文化紀要』no. 8(2) 成城大学大学院文学研究科 1982）[Z051.3/129]
- 『大山寺縁起』大山寺 1984 [K18.64/23] [N5.2/タ`イ]
- 圭室文雄 『『大山不動靈験記』に見る大山信仰』（『郷土神奈川』第 18 号 神奈川県立文化資料館 1985）[K097/3/16/20]
- 『大山史年表』内海弁次著 大山寺 1986 [K18.64/26]